

東北水産研究レター No.26 (2012. 12)

サメガレイが減少した原因を探る

サメガレイは、その名の通り体の表面が鮫のようにザラザラしたカレイで、水深150mから1,000mの深海にまで生息しています（写真1）。東北地方太平洋側では主に宮城県の石巻漁港に水揚げされ、刺身、干物、煮つけ、焼き魚などに利用されています。1970年代にはこの海域だけで6,000トンを超える漁獲量がありましたが、近年では300トン前後と最盛期の5%程度にまで落ち込んでしまいました。そこで、サメガレイが減った原因を明らかにするために漁獲物の年齢構成を調べました。



写真1 サメガレイ (有眼側)

魚の頭の中にある耳石（じせき）には、樹木と同様に年輪（ねんりん）が形成され、これを数えることで年齢を知ることができます（写真2）。この方法でサメガレイの年齢を調べたところ、雄では寿命が15歳、雌では22歳と、魚類の中でも比較的長生きであることが分かりました。また、年齢と全長（頭の先端から尾鰭の先端までの長さ）の関係から、水揚げされた魚の全長を測ることで漁獲物の年齢が推定できました（図1）。

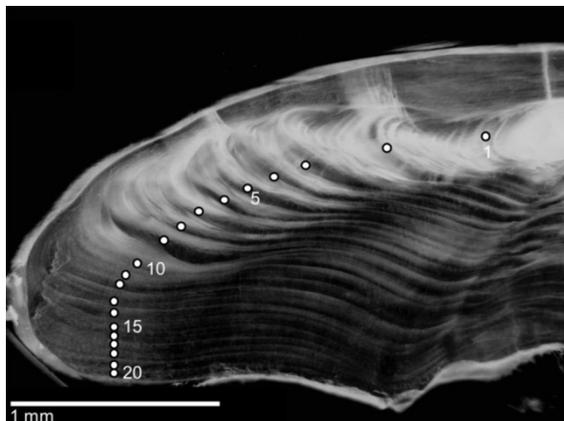


写真2 サメガレイの耳石断面 (全長54cmの雌、20歳)

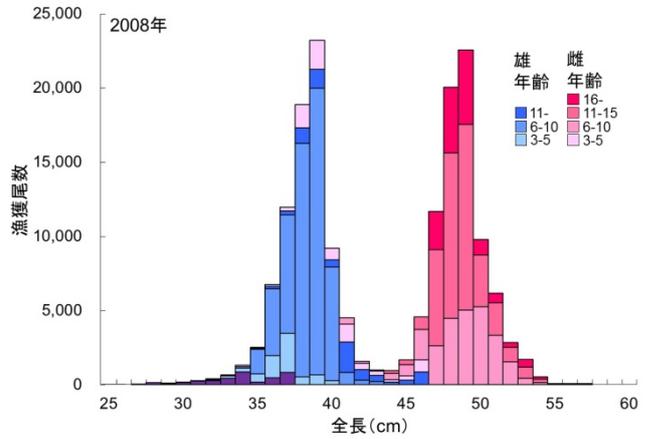


図1 石巻漁港に水揚げされたサメガレイの全長組成およびその年齢構成 (2008年、雌雄別)
※紫色のバーは性別不明の1、2歳魚を表す

石巻漁港では40cm前後と50cm前後のサメガレイがたくさん水揚げされていますが、40cm前後は高齢の雄、50cm前後は高齢の雌がほとんどを占め、漁獲物の大半は高齢魚であることが判明しました。高齢魚は繁殖能力が高いため、このような魚を集中的に漁獲してきたことが、サメガレイが減少した原因のひとつであると考えられます。

このため、サメガレイ資源を昔の水準にまで増やすには、産卵親魚を獲り尽くさずに保護することが大切です。また、その一方、2008年以降に生まれたサメガレイが多いことが最近の調査からわかっており、これらが大きくなるまで生き残れば、今後、サメガレイが増加するのではないかと期待されています。

(資源管理グループ 稲川 亮・服部 努・伊藤正木・成松庸二)



稲川 亮 研究支援職員
服部 努 主任研究員
伊藤正木 資源管理グループ長
成松庸二 主任研究員

コンテンツ

- ① サメガレイが減少した原因を探る
- ② エゾアワビ資源に対する東日本大震災の影響